

教
育

第 116 号

平成二十七年 前期
研究大会・研修会 特集
各支部・各学校より



子どもの今と未来を「本気」で考える教師

三河教育研究会 副会長
戸 田 守 彦



勤務校の豊橋市立野依小学校の玄関には、「本気」と太書きされた額があり、校訓になっていきます。この文字を約百年前、明治四十四年に揮毫されたのが、金原明善氏です。

明善氏は、江戸時代末期、浜松市の東部天竜川右岸の安間村に、名主の子として生まれました。彼の生家は旧東海道に面していて、間口の広い木造二階建の家屋が今も残っています。金原家は、広大な田畑や大勢の小作人を抱え、村役人のかたわら両替商等もしていました。

彼の生まれた天竜川下流域では、数年前に一度、洪水で多くの人命や田畑や家屋が失われていました。明治元年、三十七歳で名主を継いだ明善氏は、天竜川の両岸に洪水に負けない堤防を作ることで、洪水を防ぐことができると考え、維新間もない明治政府に堤防の建設を申し出ました。私財を投じて工事を進めると同時に、明治十年、大久保利通に面会し、救済を直接願ひ出しました。

天竜川の堤防を完成させた明善氏は、天竜川の水の利用を考え、三方原台地に

農業用水や工業用水を引いたり、浜名湖舞阪付近に港や運河を建設したりする等遠州南部の殖産興業も考えました。

その後、天竜川の上流にある森林を開発することで、森林の貯水能力を高めて洪水を防ぎ、林業を発展させました。さらに、北海道南部に「金原農場」を開拓し、地元や開拓地に各種の学校を建て、人材を育てることに力を注ぎました。明善氏は、大正十二年、九十二歳で亡くなる間際まで、自分がかかわった静岡県・愛知県・岐阜県の森林開発の状況を自分の足で歩き、時には駕籠に乗って視察しました。

彼が考えた事業がすべて成功したとはいえません。分流域での堤防工事を進めたときには、反対する港の荷揚げ業者に自宅を取り囲まれるという事件も起きました。しかし、その一生を振り返ると、明善氏が苦難にあえぐ天竜川流域全体の農民や、罪を犯してしまった人など、世の中の弱い立場にある人々の救済を「本気」で考え、各分野の専門家と協力しながら事業を成し遂げ、長い目で人々や事業の行く末を見守っていたといえます。

今、私たち公教育に携わる教師には、教育改革をはじめ、いじめ・不登校対策等多くの課題が突きつけられています。三教研に集う教師が、それぞれの学校に集う子どもたちのために、「この子」の今の状況を「本気」になって考え指導や支援を行うことで、未来に生きる力が育つことを信じ、教師同士が「本気」で切磋琢磨しなければならないと考えます。

通学路への宣戦布告

三河女性役職者会 会長
松 崎 利 美



幡豆中学校に登校するには、いくつかの急な坂道を乗り越えなくてはなりません。三河湾と美しい山々に抱かれた幡豆中学校区だからこそ、大変さがあります。そんな通学路に、二年生の梓さんが宣戦布告しました。

『私の通学路であるこの坂道はとても急で、体力が足りない私にとっては心臓破りの坂道だ。私は毎朝登ることが苦手だった。だから、一定の場所まで立ちこぎで行くと自転車を降り、残りの三分の一ほどは自転車を押しながら歩く。(略)』

太陽の光が海に反射してきらきらと水面が光っているのが見えてすぐきれいだ。そんな景色に気づけたときは、きつい坂道を登ったからこそ見えるものなんだよなあと、またこの坂道も悪くないと思えた。(略)卒業するまでに、絶対にこの坂道を頂上まで登りきってやる。新たに、通学路に宣戦布告した私は、いつもより力強くペダルをこいだ。』

本校は、毎日の授業で「わかった!」「できた!」と学ぶ喜びを感じながら、楽しく学習に取り組み、自分の力を高め努力する

子どもたちを育てるために、授業改善に取り組んでいます。学習において、身につけさせたい力は、自転車をこいで坂道を登る力と同じように、毎日の授業で身につくものだと思っています。

「わかった!」「できた!」という声が聞こえてくる授業の山場は、きつい坂道の頂上で梓さんが見た「太陽の光が海に反射してきらきらと水面が光っている」景色と同じように、大きな感動を子どもたちに与えることでしよう。その感動が、きつい坂道を自転車で登りきろうとする梓さんの宣戦布告と同じように、子どもたちの学びへの意欲につながっていくと考えます。

子どもたちが自ら進んで、他者と協同的に学ぶ教育が重視されています。各教科において、授業改善に取り組んできたことにより、自分の力で学びの坂道を登ろうとする子どもたちの姿が多く見られるようになってきました。

目標を低くして平坦な道を歩くのではなく、幡豆中学校区の通学路に多く見られるようなきつい坂道に、果敢に挑戦する子どもたちを育てていきたいと願っています。そして、子どもたちと共に、太陽の光を受けてきらきらと輝く美しい景色を見たいです。



子どもを中心に据えた教育の成果を広める

—平成 27 年度 研究大会・研修会（夏季）を終えて—

総務委員会

総務委員会では、五月二十日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各種委員会の夏季研修会等の充実について、協議を重ねてまいりました。

本年度は、夏季に十六の研究大会・研修会が開かれました。子どもが生き生きと学ぶ姿をめざし、よりよい授業づくりのヒントを得ようと活発な議論が展開されました。今秋には六つの研究大会・研修会が計画されています。なお、研究大会・研修会において提案された指導案は、三教研のホームページに随時掲載していきますのでご活用ください。授業力養成講座を、八月二十五日に碧南市文化会館、二十六日に豊川市役所音羽庁舎にて開催しました。約百五十名の受講者が集い、熱心に研修が進められました。研究大会や研修会、授業力養成講座で学んだことを各学校でお伝えいただき、子どもを中心に据えた教育の推進に生かしていただくことを期待します。

最後になりましたが、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

部会・各種委員会

研究大会・研修会の報告

国語

「自らの言葉の力を磨き、
ともに高め合う授業」

平成二十七年年度 国語部会夏季研修会
期 日 八月七日（金）
場 所 西尾市文化会館
中央ふれあいセンター
参加者 三百六十八名
講演会「詩人 茨木のり子と私」
講師 アナウンサー
山根 基世 氏

多くの先生方のご参加を得て、午前中は、七つの分科会で研究協議を、午後からは全体会と講演会を行いました。

午前の分科会では、研究テーマに沿った実践について提案がなされました。協議会では、グループで協議を行う分科会もあり、子どもの言葉の力を磨くとはどういうことか、また、そのために必要な教師支援は何なのかということについて多くの先生方が熱心に協議に参加される姿を見ることができました。

午後の講演会では、アナウンサーである山根基世氏を講師にお迎えし、西尾市にゆかりのある詩人、茨木のり子さんとの交流やアナウンサー時代の経験についてお話しいただきました。なかでも、茨木のり子さんの詩を朗読された場面では、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

詩人とアナウンサー、二つの視点から、言葉に対する感性の豊かさや言葉を大切に紡がれる姿勢を感じ、言葉を扱う国語教師として多くの学びを得た講演会になりました。

本研修会を支えてくださった提案・助言・司会の先生方、西尾支部の先生方に心より感謝申し上げます。



ご講演される山根基世氏

指導の指針、言葉と心の充実

田原・六連小 伊藤 和人
夏季研修会では、小学校高学年・書くことの分科会に参加しました。書くことの意義を実感し、推敲して自力で文章を書くことができる子の育成について、具体的な手だての提案をしていただきました。卒業文集の作成を目標に設定し、題材選びや作文メモなどの段階的な指導、推敲チェックリストによる校正のポイントの明示など、学びの多い協議会となりました。また、講演会では、山根氏による朗読を、詩の世界観に入りこんで心地よく聴かせていただきました。茨木のり子さんがどんな気持ちで書かれたのかと思いを寄せて、ご自身の読みを声に出して表現されていると感じました。

すぐにでも実践してみたい指導方法を学ぶとともに、言葉と心を磨くとてもよい機会になりました。

書写

平成二十七年年度 国語部会書写実技講習会
期 日 七月二十四日（金）
場 所 岡崎市電美丘会館
参加者 五十一名
講演講師 愛知教育大学教授
衣川 彰人 先生
実技講師 岐阜女子大学教授
中根 海童 先生

書写の基本を改めて学んで

碧南・新川小 石川 貴子
前半は、衣川彰人先生による「筆順と点画」の講演がありました。漢字の筆順は「上から下へ」「左から右へ」が原則で、文字の組み立てや点画のつながりと重要なかわりをもつことをわかりやすく教えていただきました。

後半は、中根海童先生のご指導で、書き初めの題材を中心に楷書と行書の実技に取り組みました。「穂のS字」や「一字一筆」などのポイントは、すぐに授業に生かせるものでした。また、大学で研究されている基本点画のQRコードの紹介もあり、新しい時代の流れを感じました。



書写実技に取り組む様子

緊張した空気の中で真剣に書に向かい、暑さを忘れる充実した研修となりました。

算数・数学

「主体的・協働的に学ぶ 算数・数学教育の実践」

平成二十七年年度

算数数学部会夏季研修会

期 日 八月五日（水）

場 所 豊川市御津文化会館

豊川市御津生涯学習会館

参加者 四百九十四名

講演会「算数・数学の面白さを
感じる授業づくり」

講師 愛知教育大学名誉教授
志水 廣 先生

午前は、小中学校あわせて十二の提案を六分科会に分かれて協議しました。それぞれの分科会で、『主体的・協働的に学ぶ算数・数学教育の実践』のテーマのもと、「かわり合い」「算数・数学的活動」「思考力・表現力」などをキーワードに各校の実践が提案され、活発な討議が行われました。また、最後に助言者である大学の先生方から、実践に対する改善点や今後の授業に役立つ助言をいただき、たいへん充実した研修の機会となりました。

午後は、愛知教育大学名誉教授である志水廣先生より「算数・数学の面白さを感ずる授業づくり」という演題で講演をしていただきました。子どもたちの本当の理解は、具体的な操作活動によって培

われ、その実感は子どものつぶやきに表れることなどを、実際の授業場面をもとに語っていただきました。紙を折って様々な長さを作り出す活動を取り入れるなど、参加者の先生方一人一人が子どもたちの気持ちになつて「算数・数学の面白さを感じる授業」を受けることができました。



ご講演をされる志水先生

子ども中心の授業づくりの大切さ

豊橋・豊城中 影山 明弘

子どもへのきめ細かい指導について学びたいと考え、分科会は小学校低学年の部会に参加しました。ノートの上部に数図ブロックを置くスペースをつくるなど、子どもたちが学習しやすい環境づくりについて学ぶことができました。とても参考になりました。

講演会では、教材研究の大切さを改めて感じました。学習内容の理解については、言葉で説明させるだけではなく、理解できたことを子どもたちが実感し喜べるような手だてを講じていきたいと思いました。

音楽

「音楽のよさを学び かわり合い 想いを伝えて」

平成二十七年年度

音楽部会夏季研修会

期 日 八月四日（火）

場 所 岡崎市シビックセンター

参加者 二百二十名

実技講習会

「その気にさせる歌唱指導法」

講師 太田区立東調布第二小学校
主任教諭 高橋 保則 先生

本年度の研修会では、教師になつて間もない新任の先生から中堅の先生まで、授業や学級での合唱指導で困つてみえる先生方を対象に、授業実践にすぐに生かすことのできる内容を、活動を交えてわかりやすく教えていただきました。

合唱指導の講習会という印象を受けますが、高橋先生の講習会は、自分自身が子どもの立場で授業を受けている感覚になりました。また、実技中心で、体で覚えること



全体合唱で指揮をされる高橋先生

ができ、わかりやすいものでした。なにより、高橋先生の合唱指導に向き合う熱意に心を打たれました。

「歌うって楽しい」という気持ちを、子どもたちにも感じさせるための指導をめざして、教えていただいたことを実践していきたいと感じることができた講習会となりました。

具体的に意識させるために

岡崎・矢作中 安藤 朗広

「その気にさせる歌唱指導法」という主題での実技講習会でしたが、実際に歌いながらの実技指導や、歌詞からの楽曲の分析など多くのことが勉強になりました。その中で強く感じたことは、音楽という抽象的なものをいかに子どもが具体的に意識できるようにするかということでした。

響きを味わうために、自分の声をよく聴き、体の共鳴する部分や、耳に手を当てる。息がしつかりと出ているか確認するためにリップロールで歌う。私たちが「もっと響かせて」「もっとよく聴いて」「もっと息を出して」と抽象的な言葉で指示してしまうことを、具体的に体感できるような活動に置き換える。そうすることで、子どもが達成感を味わい、音楽に対してその気になつていくということを感じました。

子どもたちが、できた、響いた、いい音がしたと感じられる場面を大切にしながら、今後の授業を行っていききたいと思ひます。

造 形

「子どもの思いが広がる造形教育」

平成二十七年年度 造形部会夏季研修会
期 日 八月七日（金）
場 所 おかざき世界子ども美術博物館
参加者 四十九名
実技講習

「身近なダンボールを素材とした
ダンボールアートの制作を体験し、
授業に生かす」
講師 造形作家 玉田 多紀 氏

三河地区より小学校三十名、中学校十九名の計四十九名の参加があり、たいへん盛況でした。

本年度は、ダンボールの強度と柔軟性を生かした独自の技法により、木彫のような質感の動植物や人物の制作を行っている造形作家・玉田多紀氏を講師に招き、実技講習を行いました。

講話では、ダンボールを素材として選んだ理由や、自らの作品の紹介から素材としての特徴や可能性について、お話しいただきました。

実技では、玉田氏自らダンボールを手にとって、つぶしたり、水につけてはがしたりと、参加者にわかりやすく技術指導をしていただきました。また、参加者の制作状況を確認しながらアドバイス

いただき、参加者は生き物をテーマにした作品を完成させました。参加者からは、具体的な講習はとても役に立つと好評を得ました。

鑑賞会で



ご高評をされる玉田氏

は、参加者一人一人にお褒めの言葉やアドバイスをしていただき、「実際の授業で、子どもものやる気を引き出すのに鑑賞会での言葉が参考になった」などの感想を得ることができました。

本研究会には、三河地区から多くの先生方のご協力をいただきました。関係の方々に深く御礼申しあげます。

ダンボールアートを体験して

田原・福江中 田山 歩

ダンボールという身近な素材の可能性を最大限に活用した制作でした。ダンボールを柔らかくしたり、水につけて粘土のように使ったりして、みるみるうちに動物の形に変化していく様子は、まるで魔法をかけられているかのようにでした。今回の体験で、強度があり、柔軟性のある身近なダンボールという素材の魅力を再発見することができました。今後の授業の教材として、ぜひ取り入れていきたいと思いました。

保健体育

「仲間とかわりながら、習得した知識・技能を活用する楽しさを味わう体育学習」 (三年次)

平成二十七年年度 保健体育部会夏季研修会
期 日 八月五日（水）
場 所 豊川市文化会館
参加者 二百九十一名
講演会「ペップトーク」目標を達成させる
最強のショートスピーチ

講師 日本ペップトーク普及協会 岩崎 由純 氏

小学校部会研究協議会
助言者 愛知教育大学教授 上原三十三 先生
発表者 豊田・本城小 山内 直 先生
中学校部会研究協議会
助言者 愛知教育大学教授 森 勇示 先生
発表者 新城・新城中 杉原 知 先生

全体会では、三河教育研究会会計監査鳥居弘一先生のあいさつに続き、豊川市教育委員会の松平貴主課長様よりご祝辞をいただきました。

講演において、岩崎由純氏には、人のやる気を引き出す『ペップトーク』について体験談を交えながらお話しいただきました。参加者の先生方からは、「すぐにも実践したい」という声が多く聞かれ、実りの多い講演会となりました。

研究協議会において、小学校部会では、異学年の



ご講演される岩崎由純氏

交流を取り入れた、「ソフトバレーボール」の実践が、中学校部会では、得意技を極めていくことをねらった「パドミントン」の実践が提案されました。

参加者の先生方からは、質問や意見が次々に出され、充実した協議会となりました。また助言者の先生方からは、発表者の実践に即したご助言と今後の実践に役立つお話をいただきました。

最後に、この研修会でお世話になりました豊川市体育主任者会の先生方、各地区委員の先生方に深く感謝申し上げます。

生徒が積極的に取り組む授業のために

豊川・南部中 溝口 智子

生徒のやる気を引き出すことはとても難しいと感じていました。岩崎氏のご講演で、『ペップトーク』（やる気にさせるショートスピーチ）のコツを具体的な例をもとに教えていただきました。「短くて」「わかりやすい」言葉で、相手のよさや頑張りを認め、ポジティブな言葉がけをすることが、やる気にさせるうえでいかに有効かということがわかりました。明日からぜひ実践したいと思います。

中学校部会では、杉原先生の実践をもとに、ネット型の種目で、どの技能を身につけさせ活用させるかについて考えました。また、運動経験を積ませるための道具や練習の工夫についても学びました。森先生のご助言からは、ゲーム経験から生まれる生徒の「できるようになりたい、知りたい」ことを出させる授業を展開することの重要性を感じました。今後の授業実践に生かしていきたいと思います。

技術・家庭（小学校家庭科）

「未来を創り出す豊かな心と
確かな実践力を育む家庭科教育」

平成二十七年年度

技術・家庭部会夏季研修会

（小学校家庭科）

期 日 八月四日（火）

場 所 知立市文化会館 他

参加者 百六十名

指導講話

「被服の教材研究にかける想い」

講師 愛知教育大学教授

加藤 祥子 先生

知立市で夏季研修会を開催したところ、多くの先生方にご参加いただき、大変有意義な研修会となりました。

研究発表では、三教研技術・家庭部会消費・環境班から、買い物シミュレーションを取り入れ、商品表示やマークを見たり、環境面に配慮したりして、自分の消費生活を見つめ直す授業実践が報告されました。知立地区からは、小中学校連携による防災教育の視点を取り入れた実践が報告されました。災害を恐怖に感じるのではなく、生きることへの課題解決として家庭科学習を進めることの重要性が提案されました。どちらも確かな実践力が育まれた実践であり、参考となりました。また、豊川地区からは、来年度の愛知県家庭科教育研究大会に向け、キャリ

ア教育の視点を取り入れた授業づくりについて提案がされました。

指導講話では、加藤先生から「被服教材にかける想い」について、実物をもとにお話しいただき、教材研究の進め方について、多くの「示唆をいただきました」。

午後は、知立地区の先生方の計画による実技研修会を開催し、杉浦太鼓店や三河仏壇の工場見学、あんまきづくり、防災クッキング、防災出前講座など、各会場に分かれて研修を行いました。

知立市の産業や伝統文化、人々の温かさに触れた一日でした。知立地区の先生方をはじめ、発表してくださった先生方、多くの先生方に深く感謝申し上げます。

実践力を育むために

新城・東郷西小 中根 靖恵

研究発表では、買い物シミュレーションや防災を意識した調理など、体験的活動を重視しながら課題を解決する実践があり、とても参考になりました。

加藤先生の講話では、自分の想いをもつて、一つのことを追究し続ける大変さ、またその素晴らしさを感じました。

実技研修では、災害時の非常食を作りました。ポリ袋での簡単な調理でしたが、栄養バランスのとれた料理を作ることができ、驚きました。

今回の研修で学んだことを生かし、子どもたちが自分の生活を見つめ、考えることができる授業をこれから実践していきたいと思いました。

特別活動

「未来に希望をもち、
ともに生きる力を育てる特別活動」
～望ましい集団活動を通して～

平成二十七年年度 特別活動部会夏季研修会

第二回 愛知県小中学校特別活動研究大会

期 日 八月四日（火）

場 所 豊川市勤労福祉会館

参加者 二百二十六名

講演会 「子どもを育てる学級づくり」

講師 愛知教育大学教授

鈴木 健二 先生

講演会では、昨年度に引き続き鈴木健二先生よりお話をいただきました。子どもを育てる二つのポイント「教師の感性を磨く」、「多様なしかけで子どもを育てる」についてご講演くださいました。「あたりまえのことをあたりまえにやることの大切さ、感性を磨くために、自然や身のまわりのことに目を向けることの大切さを学びました」という声がたくさん集まるなど、昨年同様に大変好評でした。

講演会後は、小中学校ごとに分科会を開催しました。それぞれ二人の先生から提案をしていたいただき、活発な協議が行われました。



ご講演される鈴木健二先生

参加された先生から、「分科会での提案を聞き、望ましい集団をめざし、頑張っている先生方から刺激を受けることができました。縦割り活動を進めていくことの大変さを全職員で乗り越え、子どもの有用感を育てていることに感心しました」といった内容の感想が、多数寄せられました。

研修会を開催するにあたり、豊川地区特活部の先生方に、たくさんの協力をしていただきました。ありがとうございました。

教師として大切なこと

豊田・駒場小 平澤 純

講演会では、講師の鈴木先生より、教師として大切なことは「感性」を磨くことだと教えていただきました。子どものかすかな成長に気づくことができる教師でありたいとの思いを新たにしました。

続く分科会には、提案者として参加させていただきました。先生方から熱心な質問や、貴重なご意見を多くいただいたことで、自分の考えが一層深められたと感じました。学んだことを生かし、よりよい活動を展開していきたいと思っています。また、自分の実践が少しでも他の先生方の参考になれば幸いです。



提案された平澤純先生

特別支援教育

「二人一人の教育的ニーズに応じた教育のあり方をめざして」

平成二十七年年度

特別支援教育部会夏季研修会

期 日 七月三十一日（金）

場 所 新城文化会館

参加者 勤労青少年ホーム
三百九十九名

講演会「社会人になる準備」

―就労生活支援から

見えること―

講師 西三河北部障がい者

就業・生活支援センター

主任就業支援担当

市井 壽一 氏

開会行事では、三河教育研究会酒井敬副会長のあいさつに続き、新城市教育委員会教育長の和田守功様からご祝辞をいただきました。

講演会では、講師の

市井壽一氏から、社会人として身につけておきたいことや、卒業後の求人状況など、具



ご講演される市井壽一氏

体的な事例を挙げてご講演いただきました。また、私たち教師が、学校生活の中で、子どもたちの将来に向け、どんなことを身につけ、どのように支援していけばよいのかを、具体的にご教示していただきました。

午後は、七つの分科会に分かれ、提案者の先生方から、明日からの授業にすぐに生かすことのできる実践発表がありました。また、グループ討議では、昨年度よりも時間を長くしたことで、各分科会のテーマに沿って、より活発な意見交換がなされました。

最後になりますが、新城市教育委員会をはじめ、新城市、豊川市、北設地区の先生方のご協力により、たいへん有意義で、充実した研修会になりました。ありがとうございました。

かわりを大切に

岡崎・竜海中 鈴木はるみ

今回の分科会で、子どもたちのコミュニケーション能力を高めることの重要性を再認識することができました。子どもが興味をもって主体的に活動できる題材を考え、その場に応じた個々の支援を準備して実践することで、子どもたちは、自然にかわりを求めて動き出し、成長していくのだと感じました。

これからも、この会で学んだ研修内容を現場に生かして、日々の教育実践に取り組んでいきたいです。

養護教諭

「養護教諭の資質向上と健康教育の推進」

平成二十七年年度

養護教諭部会夏季研修会

期 日 八月七日（金）

場 所 蒲郡市民会館

参加者 四百三十九名

講演会「ほっとひと息 元気になるあれ」

講師 言の葉墨彩画家 ひろはま かずとし 氏

開会行事に次ぐ実践発表では、知立市養護教諭部会が、「望ましい生活リズムを確立し、健康的な学校生活を送ることができる子の育成 ―学校・家庭・地域が連携して取り組む、睡眠を中心とした指導を通して―」をテーマに発表しました。睡眠への意識向上と保健指導を柱に、市内で統一した指導を進めた結果、教員や保護者の知識や意識が高まり、子どもの意識向上、行動変化につながった実践は、参加された先生方にとって大変参考になるものでした。

調査研究発表では、養護教諭が行う保健指導の充実をめざし、評価票の作成と検証について発表しました。今年度は、全会員が保健指導を行い、評価票を活用し、自分の実践を客観的に振り返ります。その上で、検証を進め、実践力の向上をめざします。

常任講師の愛知教育大学准教授の山田浩平先生からは、評価のための質問紙に

かわる理論と質問紙の結果の読み取り方について、具体的な評価例を挙げて、説明をいただきました。また、紙上発表された岡崎市養護教諭部会へのコメントもいただきました。

講演会では、尺八のBGMが流れる中、ひろはま氏の朗読から始まりました。「自分がしあわせで、好きでなければ、大切な人を愛することはできません」と、その話には、愛があふれていました。いつの間にか、私たちの心がやわらかく解きほぐされていくような感覚に、とても癒されました。最後に、即興で墨彩画の大作を描いていただきました。



ご講演されるひろはま氏

資質の向上をめざして

西尾・横須賀小 鵜飼 千扇

実践発表からは、各校の取組や地域の関係機関との連携の様子を聞くことができ、大変参考になりました。

講演では、心と体は別々のものではなく、つながっていて、どちらかが不調になると両方とも病んでしまうことや、自分自身を好きだと言える人は他人にも優しくできる人であり、笑顔で口から出る言葉は人を幸せにするなど、言葉の持つ力について興味深い話を聞くことができました。保健室に来た子どもたちに接しているとき、笑顔で接しているかを、考えさせられました。心温まる話を聴くことができ、有意義な研修会となりました。

総合的な学習

「自ら探究し、共に学び合う 総合的な学習の授業」(二年度)

平成二十七年年度

総合的な学習部会夏季研修会

期 日 八月四日(火)

場 所 岡崎市民会館・甲山会館

参加者 二百三十名

講演会「絵本のひみつ」

―絵本の知と読み聞かせの心―

講師 鳴門教育大学大学院教授

余郷 裕次 先生



ご講演される
余郷裕次 先生

余郷先生は、ご講演の中で、絵本のもつ秘密についてお話しされました。日頃何気なく読んでいた絵本の中に、母親を思い出させるたくさんの秘密が隠されていたことを、そして、読み聞かせが子どもたちの心を豊かにし、聞く力を育てることを、読み聞かせを交えて話されました。

その後、五つの分科会に分かれて、地域や生き方などをテーマにした十地区か

らの実践が提案されました。それをもとに分科会ごとに協議が行われました。参加者の熱心な意見交換や、助言者の先生のご助言により、充実した時間を過ごすことができました。

分科会で得たもの

新城・作手中 鈴木 千晶

総合的な学習の時間においての児童生徒の学びを深める方法は多様ですが、小学校の実践で取り上げられた「思考ツール」は、大変参考になるものでした。児童の考えがうまく整理されており、課題も見えやすく、これからの私自身の実践に生かしていきたいと思うものでした。

また、地域を教材に取り上げた中学校の実践においては、先生の計画や下調べがしつかりされており、生徒が生き生きと課題に向かって取り組んでいることがわかる素晴らしい実践でした。取り上げる地域について、教師自身も生徒とともに学び、生徒の郷土愛の深まるものにしていかなければならないことも実感できました。

最も印象に残っていることは、助言者である榎原先生の「学習課題の設定がよければ、生徒は、のりにのって学習ができる」という言葉です。生徒がもっと学びたい、深めたいと思える学習になるよう、私たち教師が、しっかりと教材研究をしていかなければならないと感じました。

学習情報

「ネットワーク社会における 豊かな学びとメディア」

平成二十七年年度 ICT活用研究会

期 日 八月五日(水)

場 所 西尾市文化会館小ホール

参加者 百三十六名

全体発表会

助言者 岡崎市立新香山中学校長

名倉 嘉章 先生

助言者の
名倉嘉章先生からは、
教師や子ども
のICT
活用、自作
教材の制作



ご助言してくださった
名倉嘉章 先生

急速に進化するネットワーク社会に対応して、子どもの豊かな学びを実現するために取り組んだ実践が報告されました。全体発表会では、各地区から、それぞれの地域の特性を生かした教材制作や、GPS機能のついた携帯電話で撮影した写真をWebにアップロードすることの危険性を学ぶ自作教材、タブレット端末の活用や教科の授業としての活用事例など、子どもたちの学びを深めるICT活用のあり方について発表がありました。また、発表の後の研究協議では、発表者と参加者の活発な意見交換が行われました。

と活用について、的確な助言をいただきました。

情報化社会と付き合っていくために

豊川・御津南部小 石井 辰弥

ICT活用研究会に参加して、情報モラルについての実践発表が特に心に残りました。普段何気なく撮ることの多い写真。その写真データにも様々な情報が入っており、その便利な面と心配な面を考えると、その実践でした。子どもの実態をしっかりと把握した上で、問題点を明確にして授業が構想されており、参考になりました。

その他にも、地域の素材を用いた自作教材やタブレット端末を活用した実践などが発表され、とても興味深く聞くことができました。

豊川市では今年度、情報モラル教育に力を入れています。今後ますます社会の情報化が進むにつれ、情報モラル教育は不可欠になってきます。つい危険な側面だけに目がいきがちですが、正と負の両面を考え、子どもたちが情報化社会と上手に付き合っていくようにすることが大切であると、改めて感じました。今後は、情報化社会における豊かな生き方を、子どもたちが主体的に身に付けていけるよう、実践を重ねていきたいと思いました。



地域教材を用いた発表
を行った高森先生

理 科

「自然を意欲的に追究し、
豊かな心と創造力を培う理科学習」

平成二十七年年度

愛知県小中学校理科教育研究発表会

期 日 八月七日（金）

場 所 甲山会館・岡崎市民会館

参加者 二百六十五名

講演会 「子どもが夢中になる理科の授業」

講師 中部大学大学院准教授

小笠原 豊 先生



ご講演される小笠原豊先生

業を受けた子どもたちだけでなく、講演を聴いている参加者の目も輝くようなお話をしていたことができました。
分科会では
小学校下学

年、小学校上学年、中学校において、それぞれ二つずつの実践について報告され、活発な協議が行われました。助言者の先生からは、本テーマにかかわる多くのご示唆をいただきました。

参加された先生からは「講演会では具体物を見ながら、すぐに使えるエッセンスがたくさんもらえてうれしかった」「講演を聴き、やってみようという気持ちが高まった」「自分が教師として、何に気をつけて学ばないといけないのかを知ることができた」「実験力をあげる授業、限られた授業時間内での実験方法についての研修を今後もお願いしたい」「教材の作り方の研修会があるとよい」といった声を多数いただくことができました。

自ら学ぶ

蒲郡・蒲郡西部小 西浦 伸明

子どもたちが夢中になって理科の授業に取り組む姿をめざして授業づくりをしてきました。そのために単元構想や出会わせ方を工夫してきました。

講演会では小笠原先生が様々な実践を紹介してくださいました。どれも魅力的で子どもたちが夢中になれるものばかりでした。また、「子どもたちは私たちから何を学んでいるのでしょうか」というお話があり、授業に取り組む姿勢の大切さを改めて学びました。私自身が楽しみながら授業をつくらなといいけないと思いました。そのためにも自分がこのような会を通して学び続けていきたいと思います。

生 活 科

「自らの生活を切り拓く子ども」
—子どものつばやきに耳を傾け、
対話を大切にして、思考を深める授業—

第二十二回愛知県生活科教育研究大会

期 日 八月四日（火）

場 所 安城市文化センター

参加者 二百九十八名

講演会 伝え合い交流し気づきの質を高める生活科の授業づくり

—自然認識の基礎の育成の視点から—

講師 昭和女子大学特任教授

小川 哲男 先生

本年度の愛知県生活科教育研究大会は、安城市にて二百九十八名の参加者を迎える開催することができました。

三つの分科会では、思考を深め、気づきを生むための手だてを意識した質の高いレポートが報告され、参加者からは「夏休み以降の実践で参考になる」という多くの声を聞くことができました。助言者の大学の先生方からは、「思考」に焦点を当てた研究を具体的な事例を挙げ、思考を深めるための手だてとして示していただくなど、今後の実践を深めていく上で、貴重なご助言をいただくことができました。

講演では、具体的な実践例をもとに、生活科の知的な気づきの質を高めるためには、言葉と体験の関係をどのように考えるのか、どのような授業研究の方法があるのかを、教えていただきました。ま

た、「おもちゃ作りを実演され、その教材を使った学習活動をする」とで、どんな力を育てられるのかイメージしやすかった」という参加者からの声を多く聞くことができました。今後、どのような姿勢で生活科を実践していくべきなのか、とても参考になるお話でした。

最後に、本大会を開催するにあたり、お世話になりました安城支部の先生方に深く感謝申し上げます。



ご講演される小川哲男先生

提案をとおして

岡崎・梅園小 北川 真衣

植物とじっくりとかかわること、自然の不思議さに気づき、自分自身の頑張りや成長する喜びを実感させたいと考え、アサガオを教材とした実践を提案しました。分科会では、参加された先生方からたくさんのご意見をいただきました。また、名古屋大学の久野先生からもご助言をいただくことができ、子どもが主体的に取り組める活動とはどういうものか、考えるよい機会となりました。

今後も、子どもの思いや願いを大切に、子どもたちのつばやきに耳を傾け、積極的に対話をしながら、思考を深めていける教材開発に取り組みたいと思います。

学校図書館

「学びを広げ
豊かな心を育む 学校図書館」

第五十二回愛知県学校図書館研究大会

期日 八月二十一日（金）

場所 岡崎市総合学習センター

参加者 四百四十八名

記念講演「へいわってすてきだね」

講師 絵本作家

長谷川義史 氏



ワークショップでの読み聞かせの実演

る思いなどをお聞きし、絵本の価値を再確認する機会となりました。絵本を通じて、人と人とのつながりの大切さや、家族の温かさ、そして平和の尊さについて改めて考えることができました。戦後七十年という節目の年、記念講演にふさわしい内容でした。

午後は、八つの分科会が行われました。分科会では、各テーマに基づいて、小・中・高の先生方から提案がありました。ワークショップでは、手作り絵本の作り方や、傷んだ本の修復方法など今後の活動に役立つ技能を学びました。

学校図書館の有効活用に向けて

新城・東郷西小 加藤記久恵

小学校部会の学習・情報センターの部に参加しました。岡崎市、半田市における図書館を活用した学習のあり方について提案をお聞きすることができ、実際に授業の中でどのように図書館を活用すればよいのかを学ぶことができました。また、その後の協議会では、各校で取り組まれているさまざまな工夫を学ぶことができました。子どもが活用しやすい学校図書館づくりや、本に親しむためのブックトークの実践など、本校にも取り入れたいと思うアイデアを多くいただきました。

学校図書館教育のねらいを明確にした上で、適切な資料を整え、子どもが活用していけるようにすることが大切であると改めて学ばせていただきました。

研究校紹介

進んで関わり合い、自他ともに大切に育てる生徒の育成

～関わりを意識し、学び合う授業をめざして～

新城市立東郷中学校

本校は、奥三河の玄関口にあたる新城市の南東部に位置し、校区には織田の鉄砲隊対武田の騎馬隊の戦いで有名な長篠の戦い・設楽原の決戦場跡があります。また、新東名高速道路のインターチェンジが開設される中、田圃と古墳群に囲まれた地域に、二百九十二名の生徒が元気に学校生活を送っています。

昨年度より新城市教育委員会から「体・徳・知」の研究事業の委嘱を受け、主題を「進んで関わり合い、自他ともに大切にする生徒の育成」に関わりを意識し、学び合う授業をめざして、



設楽原決戦場まつり

学び合う授業をめざして」と設定し、学び合いを中心とした実践に取り組んできました。

主題を設定した理由は、生徒たちの日常生活を顧みると、狭い仲間意識にとらわれていたり、自ら進んで自己表現をしたいという意識が希薄であったりする場面に多々遭遇し、人と関わる力（コミュニケーション能力）の不足を感じたからです。そこで「人と関わる力」を、感情を互いに共有し、伝えたい内容を互いに理解し合う能力ととらえることとしました。

「生徒が創る授業」・「生徒が創る学校行事」をスローガンに授業研究部会・総合的な学習部会・特別活動部会の三部会を設け、実践に取り組んできました。生徒の関わる力を高めることで、生徒のもっている個性を生かすことになり、さらに他との関わりを深めることで、共生や寛容の心も育成できると考えます。これらの取り組みが、授業での関わり合いにもつながるのではないかと考えています。

十月二十九日（木）に研究発表会を開催します。当日は、全学級が公開授業を行います。多くの先生にご参観いただき、ご指導をいただければ幸いです。

（文責・鈴木浩仁）

校慢 学白

地域の偉人に学ぶ

安城市立丈山小学校

本年度、開校四十五年目を迎えた丈山小学校は、郷土の偉人である、石川丈山にちなんで学校名がつけられました。

丈山は、一五八三年(天正十一年)、代々徳川家(松平家)に仕える譜代武士の家、現在の愛知県安城市和泉町に生まれました。徳川家康の臣で、大坂夏の陣に戦功があったのですが、軍令に背いたかどで罰せられました。妙心寺で禅を学び、藤原惺窩に入門しました。後に京都の一乗寺村に詩仙堂を営み、詩文に遊ぶ生涯を送りました。

本校の六年生の修学旅行では、京都の詩仙堂に必ず立ち寄ります。丈山が隠居のため造営した山荘です。名前の由来は中国の詩家三十六人の肖像を掲げた詩仙の間にあります。すでに見学している学校近くの丈山苑は、この詩仙堂を模したものです。子どもたちは、詩仙堂の静かなたたずまいに、文人として生きた丈山の姿を見出したことでしょう。

昨年度の六年生は、総合的な学習の時間に「石川丈山に学ぶ」というテーマで学習に取り組みました。丈山の銅像がある丈山苑、丈山の書が残る丈山文庫に繰り返し足を運び、丈山について調べを進めました。また、丈山が得意とした隷書

体験を行いました。丈山の漢詩「富士山」を暗唱し、「六勿銘」(ろっこつのもい)や「福祿寿」(ふくろくじゅ)の意味を確かめ、丈山の生き方を探りました。

丈山の魅力を伝えたいという思いをもった六年生は卒業間近な二月末、丈山苑、丈山文庫にて、下級生や地域の方を対象に、丈山の生き方や施設について説明をするという丈山ガイドに取り組み、郷土への愛着を深めました。

本年度の六年生もまた、昨年度の丈山ガイドを思い出し、丈山について調べています。丈山小学校の過去から未来についても考えているところです。(文責・稲垣淳美)



丈山苑にて、丈山ガイドをする6年生

私の研究

主体的にかかわり合い、論理的な主張ができる生徒の育成を目指して
～グループディベートを通して～

岡崎市立南中学校 渡邊 勇樹

一 はじめに

いま、全教育機関に「アクティブ・ラーニング」が求められています。文部科学省の用語集では、アクティブ・ラーニングについて、学修者が能動的に学修することによって「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」と記述されています。中学校の国語科の役割として、これらの能力を育成するため、生徒が主体的に思考・判断・表現できる魅力的な学習をめざし、本研究を行うことにしました。

二 実践について

生徒の多くは、これまでの経験から、たくさんのお話を聞いています。しかし、授業となると、考えを伝える発言が単語だけになってしまうことがしばしばあります。そこで、「グループディベート」を取り入れることにしました。グループディベートとは、二・三人で一チームとなり、教室内で一斉にたくさんのお話を聞いて行う形式のことです。少人数で行うことにより、発言の回数が増え、立論を考える場合にも、意見交換がスムーズにできると考えました。

実際のディベートでは、相手の意見をよく聞いて理解することに重点を置きました。そこから、作戦タイムとして、相手を納得させるための理由や材料を考え、探す時間を確保しました。そして、反ばくでは、分かりやすく、相手を不快にしないように伝えることを目標としました。反ばくや結論を述べる際には、①具体的に聞く「何か具体例はありますか」「データはありますか」②一般化して聞く「つまりそれは〇〇ということですね」③yes-but法を用いて聞く「たしかに…ですが、…」などの手法を用いました。「論理で相手と勝負するディベートは、とても楽しいです。次は勝ちたい」という生徒の感想からも、主体的に学習にかかわる姿が見られました。

グループディベートで「話すこと」に魅力を感じている生徒を目の当たりにし、主体的に生徒が学習に取り組めるような活動を仕組むことが大きな責務だと感じました。これからも、このような生徒の姿を求め、研究を続けていこうと考えています。



ディベートで意見を戦わせる生徒

私のコレクション 3万点、でもまだまだ勉強中

豊橋市立高豊中学校 瀧崎 吉伸

学生時代から熱中してきた植物採集。最初は芹沢俊介先生のもとで、シダ植物ばかりを求めて、全国を歩き回りました。ホコガタシダ、ヤクシマタニヌワラビなど、珍しいシダとの出会いに、ますます熱中の度合いは深まってきました。金森正臣先生の行ったネズミや鹿の生態調査にも同行して、調査地域の植物相を調べるための採集もしました。

一九九〇年に、県内の全植物相を解明しようと、愛知県植物誌調査会の活動が始まりました。それまでシダ植物しか真剣に見てこなかったのに、「居ねく科」(イネ科)、「嫌な木」(ヤナギ科)、「見ず草」(水草類)などと言って避けてきた植物たちの同定に頭を悩ませることにになりました。一九九六年には「植物からのSOS—愛知県の絶滅危惧植物」が同会から発行されました。その後、県のレッドデータブック、ブルーデータ(移入種)ブックの調査や編集に関わってきました。植物の分布と分類のデータは、標本に基づくものがすべてです。どんなに美しい写真があっても、科学的資料としてはあまり役に立ちません。ましてや、どこそこで見つけたなどという、記録や

記述は標本の裏付けなしには無視されてしまいます。調査会の資料となる標本は、愛知みどりの会(当時は愛知教育大学生物学教室内)の国際登録標本室(AIC H)に収めますが、やはり自分の手元にも標本が残ります。ブルーデータブックの編集に携わり、移入種の標本が手元に集まるようになってきてからは、どんどん標本が増えていきます。本来であれば、県立の自然史博物館が受け入れて整理活用すべきのですが、悲しいかな、愛知県には博物館がありません。私の手元には、もう二度と採集できないであろう標本や、命名の基準になったものと同群落の標本などが数多くあります。私が元気なうち

は研究の材料として活用しますが、このコレクションの行く末が、豊橋自然史博物館に植物専門の学芸員不在の今、案じられてなりません。

※生物の分類上の所属や種名を決定すること



愛知と熊本に侵入した侵略的外来種 *Sparganium angustifolium* Loisel. の和名「ヒガタアシ」を瀧崎が付けました。

今後の研究会のご案内

*第53回愛知県へき地教育研究大会

「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子ども」の育成

—学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実—

10月20日(火) 新城市立作手小学校

(南校舎)

*愛知県社会科教育研究大会

「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」

10月27日(火) 西尾市立八ッ面小学校

西尾市立鶴城小学校

西尾市立鶴城中学校

*愛知県英語教育研究大会

「心豊かなコミュニケーションをめざして」

10月27日(火) みよし市立南中学校

みよし市立南部小学校

*第47回愛知県学校視聴覚教育研究大会

「確かな学力向上をめざして」学び合いにICTを活用した「吉良中の授業」の構築—

11月11日(水) 西尾市立吉良中学校

*愛知県道徳教育研究大会

「心輝く子どもを育てる道徳教育」

11月25日(水) 名古屋市教育センター

*愛知県統計教育研究発表会・講演会

「生きる力を育てる統計教育」

11月25日(水) 愛知県図書館

*愛知県生徒指導研究大会

「豊かな社会性・道徳性を育む生徒指導を目指して」

1月20日(水) 愛知県産業労働センター

編集後記

地面に落ちたドングリの実実はコロコロと転がっていきます。マツの種子は風にのり、クルクル回って飛んでいきます。オナモミは動物の体や人の服にくっつき運ばれていきます。夏に豊かに実をつけた植物たちは、秋、未来に命を引き継ぐための様々な知恵と工夫を見せてくれます。

夏休み、三河各地で夏季研修会や研究大会、授業力養成講座が、多くの参加者を得て、活発に開催されました。その中で私たちは、確かな「学び」という実をいくつも得ることができました。この秋には、その実をそれぞれの学校・地域でつなぎ、広げていきたいものです。「継承と拡充」のキーワードのもと、三河の教育をさらなる大きな木へと育てていきましょう。

今回の「教育みかわ」百十六号を「研修会・研究大会特集」としてまとめさせていただきます。ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様には深く感謝申し上げます。

◆表紙の写真◆

「探鳥会にて」

撮影 豊田市立豊松小学校校長

池田 大 先生